

ID No.	1008
研究課題名	造血器腫瘍に対する HSV-1 ウイルス療法の開発
研究代表者	門脇 則光 (香川大学・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	藤堂 具紀 (東京大学医科学研究所・教授) 北脇 年雄 (京都大学・助教) 川瀬 有美 (京都大学・研修生) 石野 亮 (京都大学・大学院生) 稲生 靖 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究報告 遺伝子組換え herpes simplex virus (HSV)-1 である G47Δ によるウイルス療法が造血器腫瘍に適用できるかどうかを明らかにするために、G47Δ と同様の遺伝子改変を施した HSV-1 である T-01 を用い、種々の細胞系列のヒト造血器腫瘍細胞株が T-01 により死滅することをこれまで示してきた。H29 年度は、HSV-1 レセプターnectin-1 の発現と殺細胞効果に定量的な相関があることを示した。また、nectin-1 を一定レベル発現しているが殺細胞効果がない細胞株では、抗ウイルス分子 PKR の経路が構成的に活性化していた。以上より、造血器腫瘍に対する HSV-1 の殺細胞効果の大部分は nectin-1 の発現により規定され、一部は細胞内の抗ウイルス分子の活性により規定されることが示唆された。また、造血器腫瘍の臨床検体では、再発・難治例で nectin-1 が発現し殺細胞効果がみられる傾向があった。したがって、既存の治療が無効の症例に nectin-1 が有効である可能性がある。	